

■6月5日

HAC、5月輸送実績、全路線、旅客数、前年同月比0.8%増

北海道エアシステムが3日まとめた5月の輸送実績(速報値)によると、全4路線の旅客数は前年同月比0.8%増の計1万2401人となった。函館—旭川線など不採算路線を休止して、主力路線を増便したことが奏功し、平均搭乗率も同1.8ポイント増の52.0%となった。

路線別の旅客数では主力の丘珠—函館線が同9.5%増の6634人、丘珠—釧路線が同31.7%増の3450人と増便効果が表れたほか、離島2路線も好調を維持した。

一方、搭乗率は、主力2路線が前年を下回ったが、丘珠—利尻線が同27.0ポイント増の74.8%、函館—奥尻線が同5.3ポイント増の31.7%となった。

(北海道新聞)6/5

<http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/471194.html> (-> <http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/471194.html>)

アジアナ航空、松山線、4-5月搭乗率50%割れ

アジアナ航空が運航する松山—ソウル線で4月の搭乗率が41.0%、5月も48.0%に落ち込んだことが3日までに分かった。50%割れは震災の年の5月以来2年半ぶり。北朝鮮のミサイル発射問題などを背景に、利用を避ける動きが出たとみられる。愛媛新聞が報じた。

同支店によると、12年度の搭乗率は4~8月が65.1~80.4%と堅調に推移。竹島問題などの外交不安が顕著になった9~3月は52.2~64.9%に低下した。一方、円安効果で外国人客の利用は増加傾向にある。

(愛媛新聞)6/4

<http://www.chime-np.co.jp/news/local/20130604/news20130604465.html> (-> <http://www.chime-np.co.jp/news/local/20130604/news20130604465.html>)

スターフライヤー、4月、旅客利用実績、増便した羽田線利用率低下

スターフライヤーはこのほど、2013年4月の旅客利用実績を発表した。これによると、国内3路線合計の搭乗者数は11万2,693人で前年比28.3%増加した。利用率は58.8%と、前年同月と比べて9.7ポイント低下した。

羽田空港の発着枠配分を受けて増便した福岡—羽田線は提供座席が前年同月比2倍となったが、旅客数は64.7%増で、利用率は前年同月よりも13.5ポイント下がった。

一方、北九州—釜山を結ぶ国際線は、運航便数は120便で、旅客数は17,928人、平均搭乗率が63.1%と前月より向上し、採算ライン(65%)に近づいている。

(7月82%、8月54.0%、9月37.5%、10月42.5%、11月59.7%、12月60.7%、1月46.7%、2月58.4%、3月61.4)となった。

(日刊航空)6/5

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(スターフライヤー プレスリリース)6/5

<http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/140120130531054805.pdf> (-> <http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/140120130531054805.pdf>)

スターアライアンス、インディゴ(LCC)に注目

(レスポンスによると)

スターアライアンス(現在27社が加盟の航空アライアンス)はインドの航空会社ジェットエアウェイズ(Jet Airways)の加盟を進めているが、新たに格安航空会社インディゴ(IndiGO)にもその目を向けている事を明らかにした。

Air Indiaの加盟については依然として保留のまま。通常スターアライアンスは格安航空会社を避けるのだが、インド航空市場のリーダー的存在にもなってきたIndiGOを無視は出来ないとの事。

スターアライアンス CEO、マーク・シュワブ (Mark Schwab) 氏は「我々はインドを十分に大きな市場と捉え、この2社の加盟がおおいに意味のあるものになると考えている。さらに話し合いを進めていくつもりである」とコメントしている。

(レスポンス)6/5

<http://response.jp/article/2013/06/05/199392.html> (-> <http://response.jp/article/2013/06/05/199392.html>)

エミレーツ航空、アライアンスに興味なし

3日に羽田―ドバイ線へ就航したエミレーツ航空は、記者会見での席で、同社とカンタス航空の業務提携についても言及がなされた。その中で、同社執行副社長のアンティノリ氏は航空会社のアライアンスについて「関心はない」とコメント。アライアンスは複雑すぎるため「顧客に対してよいものだとは思わない」とした。

(トラベルビジョン)6/5

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=57791&pg=2> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=57791&pg=2>)

カタール航空、ボーイング787-10Xのローンチカスタマーにならない意向

カタール航空のアルバクル最高経営責任者 (CEO) は4日、米ボーイング 787型機胴体延長型「787-10X」のローンチカスタマーにはならない意向をロイターに対し明らかにした。
カタール航空はこれまで、座席数323席の「787-10X」に関心を示していたことから、ローンチカスタマーになるとの観測が高まっていた。

(ロイター)6/5

<http://jp.reuters.com/article/marketsNews/idJPL3N0EG3G720130604> (-> <http://jp.reuters.com/article/marketsNews/idJPL3N0EG3G720130604>)

ジェットスター香港 (LCC)、地元投資家からの出資獲得か

香港政府民航処の運航認可を待っている格安航空会社 (LCC) のジェットスター香港が、地元香港の投資家から出資を獲得したようだ。同社に出資する中国東方航空幹部の話として4日付信報が伝えた。この投資家はジェットスター香港株の3分の1を取得するもようで、消息筋によると、インフラ開発・不動産大手のホープウェル・ホールディングス (合和実業) の胡応湘 (ゴードン・ウー) 会長とみられている。NNA ASIAが報じた。

一方、合和の胡文新 (トーマス・ウー) 社長は、傘下の上場企業にLCCへの投資計画はないと憶測を否定している。

(NNA ASIA)6/5

<http://news.nna.jp/free/news/20130605hkd007A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20130605hkd007A.html>)